

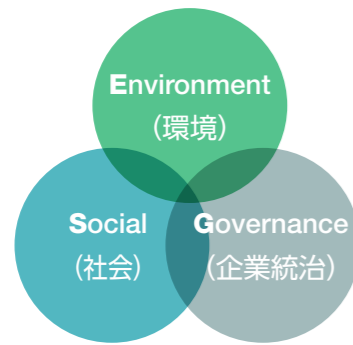


# 2020年サステナビリティ重要課題 目標の進捗

## 総括

ライオングループが2018年に特定した「2020年サステナビリティ重要課題・目標」において、各課題の解決に向けた活動を推進しました。重要課題への取り組みにあたり、PDCAで進捗を管理しており、総じて、目標達成に向けて各活動が

推進できていることが確認できました。特に海外グループ会社と連携を密にしたグローバルでの活動が進み、今後もさらなる取り組みを進めていきます。



**評価基準**  
 達成：2020年目標に対して達成  
 推進中：2020年目標達成に向け推進中

## ライオングループの取り組みが貢献するSDGs

当社グループは13のサステナビリティ重要課題を設置し、解決に向けた取り組みを推進しています。当社グループの活動が貢献するSDGsの課題を各重要課題の枠内に●で示します。

した。特に、商品・サービスや啓発活動等を通じて、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けて取り組んでいます。

### 13の重要課題と貢献するSDGs

中核主題	重要課題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
S	環境	●	●																
	人権					●				●								●	
	労働慣行							●											
	公正な事業慣行																		
	消費者課題																		
	コミュニティ参画および発展																		
	組織統治																		

中核主題	重要課題 (貢献するSDGs)	2020年目標に向けた取り組みの方向性	P (計画)	D (実行)	C (評価)	A (対策)			
			2020年目標およびKPI	2019年までの実績 (中間報告)	評価	2020年達成に向けた対策と課題			
E	環境 1 サステナブルな地球環境のための取り組み推進 6 7 9 12 13 14 15 17 ▶ P17	持続可能な社会と事業の発展の両立を目指して、生活者・地域社会とともに、地球環境保全活動を積極的に推進する	環境経営マネジメントの推進 1) 環境目標「Eco Vision 2020」の推進・達成(グローバル) 2) 家庭での使用段階も含む製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化する「新環境目標2030」の制定(グローバル) 3) 化学物質の適正使用・管理の推進(グローバル) 4) トップ環境監査・サステナビリティ推進会議*1における環境マネジメントの進捗状況の確認・見直しの実施(国内)	1) 環境目標「Eco Vision 2020」達成に向けた活動を継続 2) 2019年5月、取締役会承認のもと、長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」を制定 3) 化学物質の適正使用・管理を効率的に運用するために、化学物質情報管理システムを導入(国内) 4) ①マネジメントの改善や、よい事例に対する理解促進のため、取締役によるトップ環境監査実施(千葉、大阪、明石工場) 4) ②サステナビリティ推進会議での環境マネジメントの推進と、関係部門の意識づけ強化	1) 推進中 2) 達成 3) 推進中 4) ① 推進中 4) ② 推進中	1) 各項目での取り組みを継続 2) 長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」目標達成に向けた施策・KPIの策定 3) 化学物質の適正使用・管理を継続推進 4) ① トップ環境監査によるリスク低減 4) ② サステナビリティ推進会議での進捗確認			
			人権 2 人権の尊重 5 8 10 16 17 ▶ P23	人権を尊重するグループ体制を構築する	グループ理念に基づく人権尊重に向けた取り組みの強化 1) オールライオンの人権方針の策定(グローバル)	1) 2019年1月、国内・海外のライオングループを対象に「ライオン人権方針」を制定、Webサイトで開示 人権に対する認知・理解促進のため、海外グループ会社を訪問し「ライオン人権方針」を周知 ライオンの人権への取り組みに関するe-ラーニングを実施(受講率:100%) (国内)	達成	1) 海外グループ会社の人権に関する取り組み状況の確認と周知 ライオンの人権への取り組みに関するe-ラーニングの継続	
					社内外通報・相談窓口の拡充 1) 心のホットラインの認知率100% (国内)	1) 心のホットライン認知率: 98.6% 「コンプライアンス意識調査アンケート」および職場環境とコンプライアンスに関するe-ラーニング(受講率:100%)を通じて社内へ通知(国内) ホットラインの必要性理解に向け、海外グループ会社での心のホットラインを周知	推進中	1) 「コンプライアンス意識調査アンケート」「コンプライアンス教育」を継続 海外グループ会社での心のホットライン周知と機能の強化	
			S	労働慣行 3 ダイバーシティの推進 5 8 10 4 ワーク・ライフ・バランスの推進 3 8 5 人材育成 5 8 10 ▶ P25	多様な人材活用により、創造的な事業活動を拡大する	女性マネジメント層の活躍推進 1) 次世代マネジメントを牽引する女性従業員の育成(グローバル) 2) 女性マネジメント層比率20% (国内)	1) 「次世代経営層人材育成研修」は再構築のため休止。過去参加女性メンバーの現地法人役員任用(2名) 2) 女性マネジメント層比率: 17.1%	1) 推進中 2) 推進中	1) グローバルでの人材開発体系の整備 2) 継続推進
						「生産性の高い仕事と生活の調和」に向けたスマートワーク*2の実現 1) 従業員意識行動調査の実施(国内) 2) 有給休暇取得率70% (国内)	1) 国内グループ会社を含む全従業員に「ライオン社内意識・行動調査」実施 2) 有給休暇の計画付与日数を3日間から5日間へ増加。ワーク・ライフ・バランスの必要性が、管理職・部下ともに理解され有給休暇取得率:73.7%に上昇 在宅勤務制度の改定により利用者が拡大。テレワークトライアル率:49.2%、継続取得者:15%となり、制度定着により「働き方改革」につながった。	1) 推進中 2) 推進中	1) 「ライオン社内意識・行動調査」の継続 2) 計画的有給休暇取得促進 在宅勤務制度のトライアル率・継続率の拡大による効率的業務推進の促進
						グローバルステークホルダーの期待に応える多様で豊かな思考を持つ人材育成により、人的ダイナミズムを創出する	従業員と経営陣が直接議論を重ね、全社の課題解決に向けた新たな提案に結びつける「ReDesign FORUM」第2期を開催 ・「ライオン・キャリアビレッジ(LCV)」の運用を開始(オンライン学習コンテンツ受講率:60%以上) 集合ケース討議延べ57回開催。オンライン受講者のうち参加率:20%以上	推進中	・「ReDesign FORUM」第3期開催によるReDesign意識の醸成 ・LCVコンテンツ拡充と「学びの場」としての活用継続促進

\* 1 2018年までは「環境保全推進委員会」として実施。  
 \* 2 生産性の向上を目指して、密度の高い仕事を進める働き方。



			P(計画)	D(実行)	C(評価)	A(対策)
中核主題	重要課題(貢献するSDGs)	2020年目標に向けた取り組みの方向性	2020年目標およびKPI	2019年までの実績(中間報告)	評価	2020年達成に向けた対策と課題
S	労働慣行 P25	6 労働安全管理体制の充実 3 8	グループ全体の労働安全衛生マネジメント体制を強化・徹底する ・労働安全・設備安全の徹底 重大事故0件・重大災害0件(グローバル)	・重大事故0件・重大災害0件(グローバル) ・安全衛生防災会議を半期に1度実施し、PDCA推進を継続 ・重大事故・災害発生ゼロに向け、担当取締役によるトップ安全監査を実施(小田原、明石、千葉工場) ・従業員の安全に対する意識づけに向け、安全に関するe-ラーニングを実施(受講率:99.8%)	推進中	・安全衛生防災会議を半期に1度開催し、PDCA推進を継続 ・トップ安全監査によるリスク低減 ・安全に関するe-ラーニングの実施
		7 健康経営の強化 3 8 17	次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーに相応しいライオン流健康経営モデルを構築する ・従業員のヘルスケア習慣定着に向けた支援施策の拡充 1)健康診断受診率100%(国内) 2)歯科健診受診率100%(国内) 3)年代別がん検診受診率100%(国内)	ライオン流健康サポート"GENKI"アクションの始動により、従業員の健康意識を高め、自発的な健康行動の実践を支援 1)健康診断受診率:100% 2)歯科健診受診率:91.8%。歯科衛生士による保健指導を実施 ・予防歯科実践の促進策として、歯科医院によるプロケア受診の補助金制度を設置(プロケア受診率:58.4%) 3)年代別がん検診受診率:"GENKI"アクション移行期間のため未実施	1)推進中 2)推進中 3)推進中	ライオン流健康サポート"GENKI"アクションの推進<重点施策> 1.個人別健康管理システムの構築・実装 2.「プロケア受診100% ACTION」の推進による予防歯科習慣の浸透 3.3大がんの早期発見に向けたプログラムの実施 がん検診の対象範囲の拡大 4.就業時間外含む建屋内の全面禁煙
	公正な事業慣行 P30	8 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築 5 6 7 8 10 12 13 14 15 16 17	サプライチェーンで実効性の高いマネジメントを推進する ・先進的でサステナブルなサプライチェーンの整備 1)調達に関するサプライヤーサステナビリティセルフチェックの実施(グローバル) 2)調達に関するサプライヤーサステナビリティセルフチェック実施率100%(国内)	1)サプライヤーへのCSR活動推進強化のため、サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム(Sedex)へ加入 2)サプライヤーサステナビリティセルフチェック実施率:99.7% サプライヤーへの評価結果のフィードバックを実施(年1回)	1)推進中 2)推進中	1)サステナビリティセルフチェックの実施対象国の拡大 さらなるサステナブルなサプライチェーンマネジメントの強化に向けて、当社重点サプライヤーのSedexへの加入促進 2)サプライヤーサステナビリティセルフチェックを継続
	消費者課題 P32	9 お客様の信頼と満足の追求 3 10 12	グループ全体でお客様から信頼される企業活動を徹底し、顧客志向経営を進化させる ・サプライチェーンを網羅した信頼性保証体制の強化 ・お客様対応品質強化によるお客様満足度の向上 ・システム構築と管理マネジメント強化によるセキュリティ体制の強靱化	・海外グループ会社の品質担当者との情報共有により、各国の担当者の品質に関するレベルアップのため第2回アジアQA会議を実施。従来の品質管理に加え、お客様対応に関する各国の課題を共有し、グループで各国の課題に対する共通認識ができ、解決に向けた対策を検討(継続中) ・電話スタッフのお客様対応品質の強化に向けて、電話対応コンクールに初参加。外部のレベルを認識し、担当者のレベルアップにつながった。 ・情報セキュリティ、ソーシャルメディアのリスク、インサイダー取引規制の基礎知識に関するe-ラーニングを実施(受講率:100%)	推進中	・アジアQA会議を継続開催。各国の品質管理に関する取り組みの深掘り ・お客様満足度の向上に向け、顧客志向経営意識を持った人材の育成。 ・2019年実施内容のe-ラーニングを継続 グローバルインフラの整備に向けた海外グループ会社のシステムやセキュリティ対策に関する意見交換
	コミュニティ参画および発展 P36	10 健康な生活習慣づくり 3 4 6 12 17	人々の健康寿命の延伸・Well-Beingな毎日を目指して、オーラルヘルスケア・清潔衛生習慣など、健康な生活習慣づくりに貢献する ・事業活動と連携した、予防歯科・手洗い習慣などのヘルスケア習慣定着に向けた活動の実施 ・「地域との共生」「従業員の参画」「パートナーシップの強化」を基本とした社会課題解決への貢献	・ライオングループ全体で予防歯科活動を推進・継続 「全国小学生歯みがき大会」開催(日本とアジア、24万人の小中学生が参加) 財団を通じたオーラルケア習慣の普及活動(国内) ライオン・専門家・流通が三位一体となった「Preventive Dentistry活動」の推進(重点国:マレーシア、中国、タイ)(グローバル) ・地域との共生:協定を結び「健康な生活習慣づくり」を連携して推進。連携先での取り組みが生活者に浸透し、「健康な生活習慣づくり」に取り組むきっかけとなった。 従業員の参画:研究、営業、工場等あらゆる職種の若手従業員が手洗い習慣の普及促進活動を推進 パートナーシップの強化:行政と連携して「夫婦円満都市推進プロジェクト」を推進	推進中	・ライオングループ全体で「予防歯科」活動を推進・継続 ・行政との連携を推進・継続
G	組織統治 P39	11 リスクマネジメントの推進	グループ全体のリスクマネジメント体制を強化する 網羅的・総合的なグループ全体のリスク管理推進	・網羅的・総合的にグループ全体のリスク管理を継続推進 ・執行役員会で2019年度のリスクマネジメント進捗状況を報告(年1回実施) 経営に与える重要リスクの発生は無し	推進中	・網羅的・総合的にグループ全体のリスク管理を継続推進
		12 コンプライアンスの浸透 5 10 16	グループ全体でコンプライアンス活動の実効性を強化する ・コンプライアンス管理体制の構築 1)企業行動憲章・行動指針の周知拡大(グローバル) 2)コンプライアンスに関する研修受講率100%(国内)	1)企業行動憲章・行動指針の周知度を把握することを目的に、「コンプライアンス意識調査アンケート」の実施を海外グループ会社に要請 2)研修受講率:100%。職場環境とコンプライアンスに加え、人権、贈収賄に関する項目を新規導入し、従業員のコンプライアンス意識を強化 パート社員を含む全従業員に「コンプライアンス意識調査アンケート」(実施率:92.8%)とフィードバックを実施	1)推進中 2)推進中	1)海外グループ会社の企業行動憲章・行動指針の周知継続 「コンプライアンス意識調査アンケート」の実施を海外グループ会社へ展開 さらなるコンプライアンス体制の構築に向け、ホットライン周知拡大と相談・通報窓口機能を強化 2)e-ラーニング受講率100%に向けた取り組みを継続推進
		13 グループ・ガバナンスの強化 16	グループ全体のガバナンス強化に取り組む 「コーポレート・ガバナンス基本方針」に則したグループ・ガバナンス体制の整備	・「コーポレート・ガバナンス基本方針」に則して、ガバナンス強化を推進 ・海外グループ会社での「贈収賄防止ガイドライン」の概要説明心のホットラインの機能と併用することにより、実効性を担保	推進中	「贈収賄防止ガイドライン」を設定することにより、実効性を担保